

平成23年 産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員会 開催状況

(未定稿)

(平成23年6月8日)

質問者 民主党・道民練合 星野 高志 委員

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 福島第一原発事故を踏まえた泊発電所の緊急安全対策等について</p> <p>(一) 国の検証作業について</p> <p>このあと委員会協議会で、北海道電力さんから色々伺いますので、この議論の前提になる部分について、事故問題は今日はやりませんけれども、プルサーマル関係で数点お伺いします。</p> <p>その前に、今回の事故で、先ほどフランスのお話ができましたけれども、ヨーロッパでは原子力からの撤収というかシフトを始めております。</p> <p>今から13年前に、札幌地方裁判所で一つの判決が出ています。泊原発を差し止める訴訟に対する判決なんですけど、結果は事故の危険性を推定の信憑性なんかを色々指摘してきたんですけども、具体的な事象がないということで請求は棄却をされていますが、判決文の最後に「しかしだからといって、裁判所としては、原子力発電が絶対安全かということ、その根拠をもたない。事故は常に起こりうるからである」ということを指摘した上で、「温暖化対策で原子力を選択するのも一つかもしれないが、それは放射性廃棄物を出すということから、原子力を使わない安全な社会を目指すというのも一つの選択肢である」という全国的にはかなり異例な判決文が1999年に出されました。</p> <p>これを受けてというわけではありませんけれども、翌年、北海道では、いわゆる「原子力発電は過渡的エネルギーであって、脱原発の視点に立った上で、北海道固有の再生可能エネルギーの導入を促進すべきだ」という条例を全国で唯一制定をしております。</p> <p>ですから、こういう福島の事故などを、悲しすぎるというか酷すぎる契機、教訓になるのですが、これをしっかり教訓にした上で、この委員会のまさに目指すところ、条例の具体化こそが目指すべき北海道の姿であると思っておりますので、とりあえずはまず指摘をしておきます。</p> <p>先程来話題になっております福島の3号機は、MOX燃料、プルトニウム混合燃料を使用しているわけですが、この影響などについて、国の検証作業、その実態を道はどのように今把握をしているのですか。</p> <p>(二) MOX燃料の使用について</p> <p>3月30日に臨時の議会が開かれまして、その中で、プルサーマル計画について、福島の事故を受け、一時凍結をすべきではないかという質問が、私ども民主党ではありませんけれども他の会派から出されました。</p> <p>これに対して知事は、国の検証作業が行われようとしている。その結果を踏まえて適切に対応しますと。ある意味、一旦立ち止まったうえで、国の検証作業をみようじゃないかというニュアンスが表明をされました。</p> <p>しかし最近、その北海道電力さんが20日の日に燃料の検査申請を国に行ったあたりから、どうも知事のコメントなり会見で、一旦立ち止まるのではなくて、歩きながら考えようというような感じに変わってきたのかなという心配があるんですけど、3月30日の答弁の立場というものはいまだ変わっていませんせんか。</p> <p>(三) 欠</p>	<p>(原子力安全対策課長)</p> <p>国の検証作業についてでございますが、国では、福島第一原発の事故原因などを究明するための調査・検証を、中立的な立場から多角的に行い、本事故による被害の拡大防止や同種事故の再発防止等に関する政策提言を行うことを目的とした「東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会」を開催することを閣議決定をし、昨日、第1回の会合が開かれたところでございまして、年内に中間報告、来年夏までには最終報告をとりまとめる予定であると承知をしているところでございます。</p> <p>(原子力安全対策担当局長)</p> <p>MOX燃料の使用についてでございますけれども、今回、事故のあった福島第一原発3号機にはMOX燃料が使用されておりますが、事故の詳細が明らかになっていない現時点においては、MOX燃料の使用が、どのような影響を及ぼしているのか明らかになっていないところでございます。</p> <p>道としましては、今後、国の検証委員会の中で、今回の福島の事故にMOX燃料の使用がどのように影響していたかの検証がなされるべきものと考えており、その結果を踏まえ、対応して参る所存であり、第1回臨時会における考え方と変更はないものでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 北電のプルサーマル計画について</p> <p>そうですね。はっきり今もおっしゃられましたけども、国の検証作業が、先ほどのお話では来年の夏までに最終結果が出されるようだと、その検証結果を踏まえて適切に判断をするというわけですから、来年の夏までは一旦立ち止まるべきだというような考えを道はお持ちなんですよ。</p> <p>にも関わらず、何事もなかったかのように淡々と北海道電力さんは、5月20日時点で手続きを進められているわけですが、これに対して道はどのようにお考えですか。</p> <p>北海道電力は民間企業として自らの判断でこの手続きを行ったものという認識をもたれてると、つまり北海道は北海道で考え方なりスタンスはあるけれども、北電は、仮に検証結果、国として当面進んで止めようといった場合には、無駄になっちゃう物をこれから作って行こうと、自らの責任でというような感じに受け止められるのですが。</p> <p>ところで、前回の委員会の中で、私はこういうことを申し上げました。マスコミさんも来ておりますが、新聞やテレビで北海道は43パーセントを原子力発電に負っている、だからもしこれが止まってしまったら、停電で大変だろうなという、みんな印象を持っているんだけど本当にそうですかという議論をしましたよね。</p> <p>確かに総発電量の43パーセントを原子力発電が負っているんですが、道内にある全部の電源設備、その中で占めている原子力発電は25パーセントにすぎないと、では仮に1、2、3号機を止めた場合、どれだけ足りなくなるのですかと聞いたら、12月のピーク時において必要なのが510万キロワットぐらいで、発電できる能力は640万キロワットですと、つまり13パーセント余剰になるのですと、これはもちろんコストの問題とか、二酸化炭素の問題とかいろいろあるから非常時の話ですけども、実は原子力3号機全部を止めても、道内では発電容量はあるということが、この前明らかになりました。</p> <p>これは異常時の話です。今日は最後に異常時ではなくて、今の現実を踏まえて最後に伺います。</p> <p>(五) 道内の電力供給について</p> <p>仮に、今道民の皆さんが非常に不安に思っている、なんでこの時期にMOX燃料のプルサーマルの申請をするのという疑問や不安を持っているわけですけども、仮に、MOX燃料の導入を来年の夏の国の検証結果が出るまで1年間、作業を止めて凍結した場合に道内のエネルギー供給はいったいどうなるのか。</p> <p>一番知りたいところですけども、伺います。</p> <p>ようするに、今焦ってなんでこの時期に、やんなくても大丈夫なんだよと明らかになったと思います。</p> <p>この先はこの後の直接北電さんにお伺いすることとして、ここでは終わります。</p>	<p>(原子力安全対策担当局長)</p> <p>北電のプルサーマル計画についてでございますが、北電では、今回の電気事業法に基づく輸入燃料体検査申請については、MOX燃料加工契約の履行の関係から、北電自らの責任において行ったとしており、今後も、燃料製造工程の各段階で安全性をしっかりと確認するとともに、福島第一原発事故に関連し、新たな知見等が明らかになった際には、適切に対処するとしておるところであります。</p> <p>道としましては、原子力発電所は何よりも安全性の確保が不可欠であり、安全対策に万全を期す必要があると考えており、今後の検証作業において、MOX燃料に起因する課題が確認された場合には、この検証結果を踏まえ、適切に対応していく考えでございます。</p> <p>(環境・エネルギー室長)</p> <p>道内の電力需給についてであります。北海道電力では資源の有効利用の観点などからMOX燃料の導入について進められているものでございまして、仮にでございますが、MOX燃料の導入を延期する場合には、代替となるウラン燃料をあらかじめ確保しておく必要が生じるものと考えております。</p> <p>ただ、そうした状況が整えば、3号機の発電の継続は可能でございます。道内における電力の安定供給が図られるものと考えております。</p>